
信州大学・軽井沢風越学園の連携に関する協定、並びに 信州大学社会基盤研究所、軽井沢風越学園及び軽井沢町との 連携に関する覚書の締結をいたしました

2020年3月19日

各位

学校法人軽井沢風越学園
理事長 本城 慎之介

学校法人軽井沢風越学園と信州大学は、2020年3月19日に連携に関する協定を締結いたしました。教育面や人材育成の面での相互協力や軽井沢風越学園での学びの効果等を信州大学の知見をもとに評価・還元することで、信州大学と各自治体との包括連携協定の繋がりにおいて、地域における教育の充実やひいては地域の発展に寄与することが見込まれることから、連携協定が締結されました。協定に基づく連携事項については、以下の通りです。

- (1) 教育・人材育成に関すること
- (2) 学校教育に関する学術研究に関すること
- (3) 両者の所有する施設使用に関すること
- (4) 地域の活性化への貢献に関すること

また、連携・協力事項の実施については、他機関と連携して行うことができることとしており、軽井沢町における教育の交流、人材育成等を推進するために、信州大学社会基盤研究所、学校法人軽井沢風越学園及び軽井沢町との3者で連携し協力を行っていくものとして、3者による覚書の締結を同時に行いました。

現在、信州大学が行う教員免許更新講習を軽井沢町の協力も得て、軽井沢風越学園の施設を利用して実施することを検討しております。その他の具体的な連携については、今後協議を進めていく予定です。

本件に関するお問い合わせ：

軽井沢風越学園 事務局 辰巳 真理子
info@kazakoshi.jp

軽井沢風越幼稚園の開園と軽井沢風越学園の開校について

2020年3月19日

各位

学校法人軽井沢風越学園
理事長 本城 慎之介

学校法人軽井沢風越学園は、2019年10月30日に長野県知事より学校法人軽井沢風越学園設立の認可をいただき、2020年4月から軽井沢風越幼稚園と軽井沢風越学園（義務教育学校）を開園・開校いたします。2020年度の園児・児童は194名、スタッフは38名の予定です。

記

■法人概要

名 称：学校法人軽井沢風越学園
所在地：長野県北佐久郡軽井沢町発地1278-16
理事長：本城 慎之介

■学校概要

名称	軽井沢風越幼稚園
園長	岩瀬直樹
在籍数	48名（年少 15名・年中 17名・年長 16名）

名称	軽井沢風越学園
校長	岩瀬直樹
在籍数	合計146名 （1年生 27名・2年生 21名・3年生 19名・4年生 17名・5年生 19名 6年生 16名・7年生 27名）

以上

軽井沢風越学園

わたしたちのカリキュラム

【12年間の幼小中混在校】

「自分をつくる時期」と「自分でつくる時期」

軽井沢風越学園は幼稚園と義務教育学校からなる12年間の幼小中混在校¹です。カリキュラム上は、幼稚園年少から小学2年生までを<前期>、小学3年生から中学3年生までを<後期>とします。これは、実体験から抽象的に学び始める時期、探索から探究へと移行する時期、あそびから学びが発展する時期などをイメージして決めました。<前期>は「自分をつくる時期」、<後期>は「自分でつくる時期」と考えています。

前期の子どもたちは、あそびや生活の中で、身の回りの世界を体全体で感じたり、感情をいっぱい表現したりしながら、「～したい」を軸とした自分らしさや自分の生活をつくっていきます。後期の子どもたちは、前期の間にじっくり育んだ「～したい」をもとに、他者や社会との関係を大切にしながら、様々な「つくる」を本気でたっぷり経験していきます。

幼稚園児・小学生・中学生がまざってあそび、学ぶことが、軽井沢風越学園の大きな特徴です。前期と後期はゆるやかなつながりを持ち、スタッフは子どもの実態に即して、今その子にとって何が必要かを考え、過不足なく関わることを目指します。多様な人たちとともに、互いが気持ちよく過ごすための環境を自分たち自身でつくることを通じて、子どもたちはつくり手としての経験を深めていきます。



¹ 一般的には“一貫校”ですが、「じっくり・ゆったり・たっぷり・まざって」の願いを込めてあえて“混在校”と表現しています。

【カリキュラムの3つの軸】

①土台の芽・探究の芽

前期（幼稚園年少から小学2年生）の子どもたちは、じっくり・ゆったり・たっぷりとしたあそびを中心に1日を過ごします。わたしたちが考える子ども時代に大切な経験は、「本物に触れ、自分の体と心をつかって感じること」、「五感を通して感じ、自分の感性や感覚を豊かにすること」、「自分の手で自分の未来をつくる実感を持つこと」です。森やさえぎりの少ない校舎でのあそびを通じて、子どもたちはこうした経験を積み重ねていきます。他にも、食事や睡眠、衣類の着脱など自分の身の回りのこと、自分の気持ちを伝えること、身の安全を自分で守ることなど、自分の心と身体を知りながら、自分で自分の生活をつくっていくことも大切にします。

前期の学びは「あそびに没頭しているうちに、結果として学んでいる」ことをカリキュラムの中心とします。教えた内容を大人が示すのではなく、幼児教育で行われてきた「あそびや環境を通して、子どもたちが様々な内容を経験できるような学び方」を小学校低学年にも広げます。子ども自身の「～したい」という意欲や動機から自分で道を切り開いていくことで、学びは一つの教科に収まることなく立体的に広がります。築山からどンドン水を流したい、バッタをたくさんつかまえたい、ライブラリーで絵本をじっくり読みたい、お店やさんをしたいなど、子どもの「～したい」から始まるあそびが土台の芽・探究の芽となるのです。

②土台の学び

土台の学びは、探究を支え深める学びです。教科の専門性を持ったスタッフのガイドにより、その子に合った学び方をその子のペースで学んでいくことを前期から段階的に試行します。子どもの前を歩く、子どもと手をつなぐ、子どもの後ろからついていくなど、スタッフやその子によってガイドの方法は様々です。また、子ども自身で何をするかを決められる時間の余白を設け、より深めたいことを学んでいきます。

具体的には、たとえばあそびの中で出会った言葉をきっかけに、自分で読みたいものや書きたいことを選び、たっぷりと読みひたり、書きひたる経験を大切にします。また、あそびや生活の中での形や量・数との出会いを発展させ、スタッフが数学的体験をデザインすることもあります。こうして得られる学びは、探究する力の土台となるとともに、土台の学びのプロセスそのものが試行錯誤を含んだ探究であると考えます。

③探究の学び

「探究の学び」の時間は、子どもが自分で計画を立てて学習を進める時間です。英語・理科・社会をはじめとする各教科等の学習は、教科を横断するプロジェクトを中心に行います。

風越では、探究の学びを以下の3つのプロジェクトを通じて行います。

1. 「風越づくり」...自分と相手を大切にしながら、遊び・学び・生活をつくる。
2. 「テーマプロジェクト」...主に教科横断的なテーマで学ぶ。
3. 「個人プロジェクト」...一人ひとりが自分で決めたテーマ・問いを探究する。

探究の学びで大切にしたいことは、以下の通りです。

- 子どもたち一人ひとりの「～したい」が大切にされること
- 互いの学ぶプロセスや学んだものを通して、互いをより深く理解していくこと
- 学ぶプロセスで実社会と関わったり、学んだものを実社会につなげていくこと
- 仲間やスタッフとふりかえりを行う中で、学びの軌道修正をしたり、何を学んだか確かめながら次に進んでいくこと

時にはスタッフがテーマを提案する場合がありますが、問いを立てるのは子ども自身です。軽井沢風越学園では網羅主義的に知識を増やすことは目指しません。探究が「やってみたい、知りたい、解明したい」などの情熱とつながっていれば、子どもたちは教科の分け隔てなく学んでいくことができると信じています。

土台の学びと探究の学びは、密接に結びついています。土台の学びが探究の学びをより豊かにするだけでなく、探究の学びを通じて興味関心が拡がり、日々の土台の学びにもより前向きに取り組むことができるでしょう。異年齢で学ぶこともあれば、時には同年齢で集まったり、興味関心で集まったりと、流動的に学びの単位は変化していきます。

軽井沢風越学園では、子どもが自分の学びをデザインします。学習計画を立てるだけでなく、宿題やテストも自分で計画し、何を学んだかを定期的にふりかえって、仲間やスタッフと共有します。他の人の助けを得ながら、自分なりの学び方やペースをつくることは、自分の未来は自分でつくることができるという実感につながります。

【あそびと学びを支える環境】

①ライブラリー、ラボ

軽井沢風越学園には豊かな自然とライブラリー、道具や材料に囲まれてつくることに没頭できるラボ、数理・音楽などに出会う部屋など、様々なおもしろさ、不思議さにふれ、実際に自分もやってみたい、試してみたい、つくってみたいと思うような多様な環境があります。

②ホーム

軽井沢風越学園には同学年での学級はなく、異年齢構成の〈ホーム〉があります。2020年度は前期（年少～小2）と後期（小3以上）に分かれ、20名前後の子どもたちと2名のスタッフを一つのホームとする予定です。異年齢で過ごすことを通して、自分の視線とは違う世界を見たり、真似したり、試したりしながら、新しい世界をともにつくります。

あそびや学びに没頭するには、自分の存在が大切にされていると感じられる安心の場が必要です。ホームは「聴きあう」と「多様さを認めあう」ことを大切に、子どもたち自身で安心な場をつくります。

また、ホームは仲間と何かをつくったり決めたりすることで、自分たちの手で環境をよりよく変えていけるという手応えを重ねる場でもあります。

③コミュニケーション・プラットフォーム

軽井沢風越学園では、パソコンやスマートフォン、タブレットからアクセス可能なコミュニケーション・プラットフォームを開発中です。学校と保護者との連絡は、このプラットフォーム上でやりとりされます。

また、後期の子どもたちはこのプラットフォーム上で学習計画をつくります。学びの進捗状況やふりかえりを記入すると、仲間やスタッフ、保護者から、いつでもフィードバックをもらうことができます。

紙や電話での連絡を効率化することで、スタッフが子どもの育ちのために時間を使えるようになることも目的のひとつです。

【子ども的一日】

軽井沢風越学園では、自分の時間の使い方は自分で決めます。1日の始まりと終わりにホームでの時間を持ち、前期の子どもたちはその間を自由に過ごします。後期の子どもたちはそれぞれに学習計画をつくるため、一人ひとりが異なる時間割で過ごします。

- 前期（年少から義務教育学校2年生まで）

	月	火	水	木	金
8:15～8:30	登園・登校（8:15 施設解錠）				
8:30～13:00	生活・あそび・学び （昼食は11時～13時頃、給食はありません）				
13:00～14:00	「土台の学び」の時間				
14:00～15:00	生活・あそび・学び		義務教育 学校	生活・あそび・学び	
15:00	降園・下校		13:30 下校 幼稚園 14:00降園	降園・下校	

- 後期（義務教育学校3年生以降）

	月	火	水	木	金
8:15～8:30	登校（8:15 施設解錠）				
8:30～9:00	「ホーム」の時間				
9:00～10:30	「土台の学び」の時間				
10:30～12:00	「探究の学び」の時間				
12:00～13:30	昼食・お昼休み（給食はありません）				
13:30～15:00	「探究の学び」の時間			「探究の学び」の時間	
15:00～15:30	「ホーム」の時間		13:30 下校	「ホーム」の時間	
15:30	下校			下校	

【行事の考え方】

入学式、卒業式、運動会、音楽会...学校には様々な行事があります。私たちは、これらの行事も子どもたちと一緒にゼロから考え直します。

たとえば「運動会がやりたい!」という子どもがいれば、「運動会なんてやりたくない!」という子どももいます。運動会の開催を当たり前の前提とせず、「何のための運動会だろう?」「風越らしい運動会って?」などの問いを立て、多様な意見の人たちと対話することから始めます。

ゼロから行事をつくり、それを継続したり、ゼロに戻したりしながら、1つひとつの行事をつくっていきます。そのプロセスこそが大切な経験であり、学びだと考えます。